

第3学年 国語科学習指導案

日 時 平成18年10月18日(水) 5校時
児 童 3年 男子7名 女子6名 計13名
指導者 井上 淳子

1 単元名

場面をそうぞうしながら読もう「ちいちゃんのかげおくり」(光村図書 国語下あおぞら)

2 単元について

(1) 教材について

本単元は学習指導要領「C読むこと」の目標「目的に応じ、内容の中心をとらえたり段落相互の関係を考えたりしながら読むことができるようにするとともに、幅広く読書しようとする態度を育てる。」を受けて設定した。「ちいちゃんのかげおくり」の学習を通して、二つのかげおくりについて比べたり、戦争によってちいちゃんのまわりから失われていったものを考えたり、さらに一番心に残ったところを抜き出し聞く人に様子がよく分かるように音読したりすることを目指している。

教材「ちいちゃんのかげおくり」は、子どもたちが出会う最初の戦争文学教材である。情景や人物の言動が会話文を中心に生き生きと描かれており、読み手はちいちゃんに感情移入し、家族とのかげおくりを楽しんだり、ひとりぼっちになった悲しさや恐怖を感じたりしながら読み進めることができると思われる。また、戦争の残酷な場面をリアルに描くのではなく、戦争が人々に与えた深い悲しみが切々と語られており、だからこそ戦争を否定する作者の想いが読み手の胸に鋭く伝わってくる作品である。当時の時代背景を3年生の子どもたちに十分に把握させることは容易ではないが、幸せの象徴といふべきいくつかの「かげおくり」の情景を思い浮かべ、様子を想像しながら読むことにより、平和を願う態度へとつなげていきたい。

(2) 児童について

子どもたちは物語教材としてこれまでに、4月単元「きつつきの商売」、6月単元「三年とうげ」を学習した。「きつつきの商売」では書かれている内容について場面の特徴が聞き手によく分かるように声を出して読むことを中心に学習し、また「三年とうげ」でも、言い伝えの歌や木の陰から聞こえてきた歌をリズムカルに読む活動や役割読みを重点に行うなど、どちらの単元でも音読を通して読みを深める活動を行ってきた。始め、声に張りがなかった子どもたちも日々の音読練習や家庭学習に続けて取り組むことにより、自信を持ちはっきりとした声で音読することができるようになり、それを習慣づけることができた。また、音読練習を進めるうちに文章の中から重要な語句を見つけ出し、適切に書き抜く力がついてきたように思われる。これにより、すらすら読めるようになることが読解への第一歩であるということを実感させることができた。

しかし物語を読み取っていく際に、どこにそのことが書かれているのか、叙述に即して読み取っていく活動になるとまるで違う所を書き抜いたり、書き抜く場所が分からなかったりしていることも少なくはない。文章全体は頭の中に入っているにもかかわらず、想像豊かに読む力がついていないためであると考えられる。

これを克服させるためにも日々の指導の中で叙述を正確に読み取らせることと、その中からどんなことをイメージさせるかという指導を行い、想像する力が付けられるよう、心がけていきたい。

(3) 指導にあたって

本単元の教材で身に付けさせたい力は、場面の移り変わりや情景を想像しながら読み、ちいちゃんの心情について読み取る。場面の様子や登場人物の様子の移り変わりがよく分かるように声に出して読む。叙述に関わる言葉の意味に気をつけながら読むことができる。

「つかむ」の段階では、音読練習を中心にすすら読めるように指導したい。そのためにその後、初発の感想を書かせ、児童が疑問に思ったことや感じたことの中から課題を見つけさせたい。

「ふかめる」の段階の「一人学び」では、登場人物や場面の構成(時・場所・人物・できごと)をワークシートにまとめ、教科書のどの部分に書かれているか、叙述に基づいて書き抜いているかなどを確認しながら物語の大体をとらえられるようにする。ワークシートは穴埋め式とし、児童が物語の大体をとらえるためのキーワードを文中から正しくつかめられるように配慮したい。また、一人ぼっちでかげおくりをしたちいちゃんの気持ちに迫るために、その時の様子が分かる所にサイドラインを引かせ、書き込みをさせたい。

「学び合い」では、友達と自分の意見の同じところや異なるところを意識した発言をさせたい。そのため一斉学習の前に対話を用い、その後の発表では「友達の考え、自分の考え、そして自分と友達の意見の同じところや違うところ」を発表できるような話型を提示し、発表させたい。

「まとめる」の段階では、印象に残った場面を視写し、ちいちゃんの気持ちをまとめさせる。その後ちいちゃんにあてた手紙を書かせることにより、「ちいちゃんのかげおくり」に対する感想を深めさせたい。最終的にはグループごとに音読発表会をさせることを目標とし、練習では表現の仕方や複合語、会話文などに注意し、場面の様子や登場人物の気持ちを考えて音読できるようにさせる

3 単元の目標

「場面」についてよりよく理解し、情景や登場人物の様子・心情について叙述に基づいて想像して、戦争時を描いた作品に迫る。

(1) 関心・意欲・態度

- ・場面の移り変わりや情景を想像しながら読み、進んで人物の気持ちを表現したり場面の様子がよく分かるように音読したりしようとする。
- ・初めての戦争文学に興味を持ち、平和について考えようとする。

(2) 読む

- ・場面の様子を表す語句や文に注意しながら人物の行動や会話を手がかりに気持ちを想像して読み取ることができる。
- ・場面の様子がよく分かるように声に出して読むことができる。

(3) 言語事項

- ・叙述に関わる言葉の意味に気をつけることができる。

4 単元指導計画と評価計画 (11時間 本時 7/11)

過程	時	目 標	具 体 の 評 価 規 準		
			B (概ね達成)	A (十分達成の一例)	C (努力を要する子への手立て)
つかむ	1	・教材文を読み、初発の感想を持つことができる。	関:心に残った言葉や文章に着目し、文に書き表そうとしている。 (ノート、観察)	・叙述に即して感想を書き表し、積極的に発表しようとしている。	・一番心に残っているところはどこかを書き出させ、それについての感想を書かせる。
	2	・初発の感想から学習計画を立て、学習の課題を持つことができる。	読:「かげおくり」に着目し、学習の見通しを立てている。 (発言、観察)	・いくつかある「かげおくり」は誰がしたのかを叙述に即して読み取り、学習の見通しを立てている。	・いくつかのかげおくりがあることに気づかせ、それぞれ違いがあることに着目させる。
ふかめる	3 ・ 4 ・ 5	・場面ごとに要旨をプリントにまとめ、物語の大体をつかむことができる。	読:文章の流れを意識し、その中からキーワードを見つけている。(ワークシート、発言)	・文章の流れの中からキーワードを見つけ、内容をまとめている。	・場面を再度読ませ、どこに書いてありそうか言葉に着目させて考えさせる。
	6	・家族みんなですからかげおくりについてその時の様子を叙述に即して読み取ることができる。	読:家族でしたかかげおくりだと分かるところにサイドラインを引いている。 (記述、発言)	・気持ちを想像しながら書き込みしている。	・家族の会話文や行動に着目させて、サイドラインを引かせる。
	7 (本時)	・二つの「かげおくり」の違いに目を向け、叙述に即してちいちゃんの様子を想像しながら読むことができる。	読:場面の様子を表す語句や文を手がかりに、二つのかげおくりの違いを読み取っている。(発言、ノート)	・違いが分かる所を叙述から読み取り、その時のちいちゃんも考えている。	・ちいちゃん一人だけでした所が分かるところを探させ、サイドラインを引かせる。

	8	・家族と再会できた ちいちゃんの気持ちを読み取ることができる。	読： 家族と再開したちいちゃんの様子を叙述から見つけ、視写することができる。 (発言・ノート)	・視写することに加えて、その時のちいちゃんの気持ちを書き込みすることができる。	・ちいちゃんの行動に着目させ、サイドラインを引かせる。
ま と め る	9	・全文を読み、ちいちゃんに手紙を書くことができる。	読：ちいちゃんに話しかけるつもりで手紙を書くことができる。	・死んでしまった時のちいちゃん的心情も交えながら手紙を書くことができる。	・物語の始めと終わりのちいちゃんの様子にサイドラインを引かせ、感じたことを書かせる。
	10	・一番心に残った場面を選び、理由を書くことができる。	書：心に残った場面を見つけ、自分なりに理由を付けながらノートに書いている。 (ノート、観察)	・叙述に即した理由を付けながらノートに書いている。	・心に残った場面はどこか考えさせ、なぜその場面なのかを口頭で言わせる。
	11	・選んだ場面を様子がよく分かるように音読練習をし、発表することができる。	読：自分なりの工夫をしながら音読している。 (観察)	・会話文の後にある複合語などに気を付けながら音読している。	・そのときちいちゃんはどんな気持ちだったのかを考えさせ、音読させる。

5 本時の授業

(1) 本時の目標

二つの「かげおくり」の違いに目を向け、叙述に即してちいちゃんの様子を想像しながら読むことができる。

(2) 指導にあたって

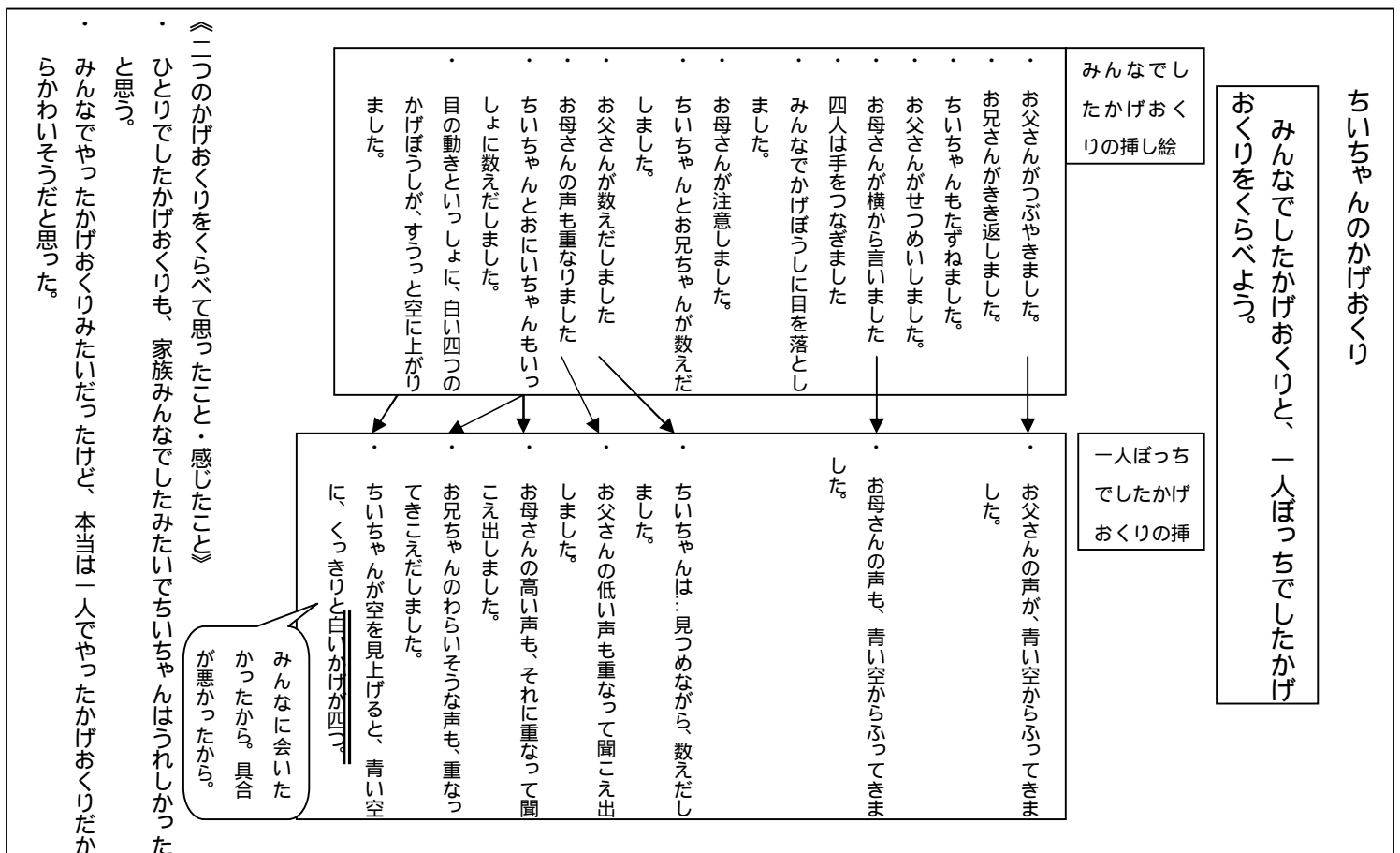
本時は、1の場面の「家族みんなでしたかげおくり」と4の場面の「ひとりぼっちでするかげおくり」とを比較し、4の場面でのちいちゃん気持ちについて考えさせることをねらいとする。一人学びでは、4の場面のかげおくりについて、1の場面と対比するところにサイドラインを引かせる。前後の会話分に気を付けさせ、見つけ出させたい。学び合いは全体の場での学び合いを行う。一人学びでは4つの影が空に浮かんだ理由を書き込みさせる。その後ペア学習を行い、対話させたい。学び合いを行う際には自分と友達の考えの同じところや違うところを意識した発表を行わせたい。対比させることにより生まれた二つのかげおくりに対する自分の思い(思ったこと・考えたこと)を書かせ、発表させる。それぞれのかげおくりの時の感想を比較することにより、ちいちゃん気持ちにせまらせたい。

(3) 本時の展開

過程	学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点	評 価 (準備物)
つ か む 5 分	1 前時の学習を想起する。 2 学習課題を確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px auto;">みんなでしたかげおくりと一人ぼっちでしたかげおくりをくらべよう。</div>	・家族みんなでしたかげおくりについて、その時の様子やちいちゃん気持ちを振り返りながら、本時の課題を意識させる。	・家族でおこなったかげおくりをまとめたもの(紙板書) ・二つのかげおくりの挿し絵
ふ か め る 1 5 分	3 学習場面を音読する。 (4の場面) 4 二つのかげおくりの違いを読み取る。 (1) 1の場面が出たかげおくりと対比するところにサイドラインを引く。 (一人学び) (2) サイドラインを引いたところを発表する。 (学び合い)	・1の場面と似ているところはどこか考えながら音読させる。 ・会話文の前後にある文を意識させる。 ・根拠となる会話文を見つけ、矢印を書く。 ・1の場面のどこの部分と対比をするのかも発表させる。	・一人でするかげおくりの紙板書 【評価】 場面の様子を表す語句や文を手がかりに、二つのかげおくりの違いについて気付くことができる。(記述、発言) 【評価】 友達を同じところや異なるところを見つけ、それを意識した発言をすることができる。(発言)

<p>ふかめる</p> <p>22分</p>	<p>4つの影が青い空にくっきり浮かんだわけを考える。 (1) わけを書き込みさせる。 (一人学び)</p> <p>(2) 書き込みをしたところを話し合う。(ペア学習)</p> <p>(3) 書き込みしたところを発表する。(学び合い)</p> <p>5 二つのかげおくりを比べての感想を書いて交流しあう (1) 感想を書く。</p> <p>(2) 感想を発表する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 自分が感じたことや友達の話を書いて思ったことなどを交えながら、ちいちゃんの思い、家族の思いを読み深める。 二つのかげおくりをした、ちいちゃんのそれぞれの気持ちを考えながら書くように声をかける。 できるだけ多くの感想を交流することで、様々な意見に触れさせたい。 	
<p>まとめる3分</p>	<p>6 学習のまとめをする</p> <p>7 次時の学習について確認する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 児童の感想を取り上げ、本時のまとめとする。 家族と再会したときのちいちゃんの気持ちを読み取っていくことを伝える。 	

(4) 板書計画



場面	構成の要素	留意すべき言語事項
第1場面 家族みんなでするかげおくり	<p>父「かげおくりのよくてできそうな空だなあ」 兄「えっ、かげおくり?」 ちい「かげおくりってなあに?」 母「ね、今みんなで作ってみましょよ。」</p> <p>《お兄ちゃんとの二人するかげおくり》</p> <p>いくさがはげしくなり、かげおくりなどでできなくなる。 空はとてもこわいところにかわる。</p> <p>手をつなぎました</p> <p>「今日の記念写真だなあ」 「すっつい」 「すっつい」 「大きな記念写真なこと」</p> <p>はたに送られ、列車へ・・・</p>	<p>かげおくり きき返しました たずねました せつめいしました 横から言いました 手をつなぎました みんなで 注意しました やくそくしました 数えだしました 重なりました いっしょに ぼつんと こわい所</p>
第2場面 空襲の夜	<p>夏のはじめのある夜、空しゅっけいほつサイレン 《赤い火が 風が ほのおのうすが・・・》</p> <p>母「さあ、いそいで」「・・・すすちゃんとお兄ちゃんを両手につないで、だきあげて おにいちゃんが転ぶ。ひどいけが。おんぶする」</p> <p>「母さんとしっかり走るのよ」「・・・たくさんの人に追い抜かれたりぶつかったりー おにいちゃん、お母ちゃん、お母ちゃん」</p> <p>ひとりぼっちになるすいちゃん たくさんの人たちの中でねむりました。</p>	<p>くっしゅっけいほう あちこちに おいぬかれたり、 ぶつかったりー ひとりぼっち</p>
第3場面 一人ぼっちで待ち続けるちいちゃん	<p>はす向かいのおばさんと出会う。 「ちいちゃんじゃないの。」「泣くのをやっとこらえて お母さんは?お兄ちゃんは何?」 「お母さん、あつちのよ」 家は、やけ落ちてなくなっていました。 『ここがお兄ちゃんとおあたしの部屋』 「お母ちゃんたち、ここに帰って来てほしいのよ」 「じゃあ、だいたいよぶね。」 「・・・」 深くうなずきました</p> <p>その夜、ほしいいを少し食べて、こわれかかったぼつ空くっの中<small>こ</small>でねむりました。</p> <p>『お母ちゃんとお兄ちゃん、きつと帰って来てほしいよ』</p> <p>くもった朝が来て、昼が過ぎ、また、暗い夜が来ました。 ぼつ空くっの中<small>こ</small>でねむりました</p>	<p>やっとこらえて 深くうなずきました こわれかかった 暗いぼつ空くっの中 また、暗い夜が</p>

